

# 太工通信

令和6年度第2号

## ロボットアイデア甲子園に向け セミナー及び見学会への参加

**太田** 高校生が新しい産業用ロボットのアイデアを提案する「ロボットアイデア甲子園」群馬大会(10月5日開催)を前に、産業用機器販売の大豊産業(高松市)は12日、セミナーと見学会を、太田市東金井町の同社グループ企業の日本治具で開いた。太田工と伊勢崎工の生徒10人が最新ロボットについて理解を深めた=写真。

### 高校生が産業用ロボ見学 県大会前に地元企業で

セミナーで、生徒たちはロボットや付帯設備を提供するコーディネーターの役割を担う「SIer(エスアイヤー)」について説明を受けた。大豊産業の伊東裕二執行役員は「産業用ロボット市場が拡大する中、エスアイヤーの需要は高く重要性を理解してもらいたい」と述べた。

見学会では、養鶏場を管理する自律走行型監視システムや、2本のアームで人と作



業できる協働ロボットなどを見て回った。太田工高2年の高山青空さん(17)は、「単純作業しかできないと思っていたロボットが、さまざまなことができると知った。実際に見学して大会へのモチベーションが上がった」と話した。

大会は日本ロボットシステムインテグレーション協会が主催し、群馬大会は3回目。大会優秀者は12月に東京で開かれる全国大会に進む。(新井正人)